

血液培養より *Legionella pneumophila* を検出した 1 例

◎谷口優香¹⁾、田中 洋輔¹⁾、安西 桃子¹⁾、大野 達也¹⁾、川口 珠巳¹⁾
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院¹⁾

【症例】関節リウマチの治療目的で X 日に入院した 70 代男性。入院中、5 q-を伴う急性骨髄性白血病と判明し、X+26 日から抗造血器悪性腫瘍剤（レナリドミド）の追加治療が開始された。X+52 日、38.1℃の発熱と倦怠感を認め、血液培養を採取した結果 *Legionella pneumophila* が検出された。CT 所見で肺炎像は認めなかった。報告時にはすでに症状改善しており、積極的な治療はされず、緩和ケアの方針となり X+75 日に退院となった。

【細菌学的所見】血液培養 BACTEC FX システムで 6 日目に好気レズンボトルが 1 セットのみ陽性となり、染色性の淡い両端がややとがった細いグラム陰性短桿菌を認めた。羊血液寒天培地（日水）、チョコレート寒天培地（日水）、マッコンキー寒天培地（BD）などを用い培養を行った結果、培養 3 日目に白色の微小コロニーがチョコレート寒天培地のみ発育した。カタラーゼ試験とオキシダーゼ試験は陰性であり、HN-20 を行ったところ *Moraxella osloensis* (3040000) に 98% と同定されたが、形態学的所見と一致しなかった。形態学的所見と発育所見よりレジオネラ属菌

を疑い、直接集落から BinaxNOW レジオネラを実施したところ陽性であり、精査依頼の結果、*L. pneumophila*（血清群 1）と判明した。

【環境調査】患者の清拭と陰部洗浄に使用していた病棟の洗浄室の蛇口と冷却塔の 2 箇所から LAMP 法で *L. pneumophila* を検出されたが、培養法では検出されなかった。

【まとめ】本患者は易感染患者および ADL 低下にて介助が必要な状態であった。発熱の 3 日前に全身清拭を行っており、全身清拭や陰部洗浄の際、LAMP 法で陽性となった洗浄室の蛇口の水を使用していたことや抹消ルートが確保されていたことからカテーテル感染やエアロゾルからの感染を疑ったが、感染源を特定できなかった。*Legionella* 属菌は通常、血液寒天培地などに発育しないが、L-システインを含有している市販のチョコレート寒天培地には発育するため注意が必要である。

会員外共同研究者：小杉成樹（血液・腫瘍内科）

連絡先：045-366-1111（内線 4119）